



平成28年5月30日

各 位

会 社 名 三菱製紙株式会社
代表者名 取締役社長 鈴木 邦夫
(コード：3864、東証第一部)
問合せ先 広報・IR室長 白川 文人
(Tel.03-5600-1485)

第2次中期経営計画の策定について

三菱製紙グループは、このたび、平成28年度(2017年3月期)～平成30年度(2019年3月期)の中期経営計画を策定し、本年4月から下記の通り取り組みを開始いたしましたので、お知らせいたします。

今後ますます厳しさを増す事業環境に対応すべく、「アライアンスによる収益の安定化」をキーワードとした4項目の基本方針を着実に実行し、外部環境に左右されにくい収益構造の実現・強化に努めてまいります。

記

1. 計画の名称 第2次中期経営計画
2. 計画の期間 平成28年(2016年)4月～平成31年(2019年)3月(3カ年)
3. 基本方針
 - ①洋紙事業の構造改革
 - ・アライアンスの強化により、主力工場である八戸工場の最適化を図り、外部環境に左右されにくい安定収益構造を実現いたします。
 - ・流通体制・物流体制の最適化を図ります。
 - ②収益基盤の充実
 - ・写真用原紙の分野で富士フイルム株式会社とのアライアンスを更に強化し、効率的生産体制を構築します。
 - ・イメージング及び機能材事業の既存分野における、三菱製紙の強みとポジショニングを活かした収益基盤事業を充実させます。
 - ③新規事業の育成
 - ・八戸の立地を活かし、将来の収益基盤強化を図るため、王子グループと共同でバイオマス発電事業を立ち上げます。
 - ・新規事業(機能性フィルム、デジタル捺染紙、不織布の新分野等)を戦略的に育成します。
 - ・注力分野(不織布、機能性フィルム、エネルギー等)に対して、厳選された戦略的・選択的な投資を行います。
 - ④収益力を支える業務基盤・財務基盤の強化
 - ・事業構造の改革に向けて業務プロセス・IT基盤の再構築を図ります。
 - ・震災前レベルまで圧縮した有利子負債の削減を進め、財務基盤の更なる強化を図ります。

⇒ 上記の基本方針を着実に実行し、早期の復配につなげます。

4. 経営数値目標

連結指標	目標値 (2019年3月期)
売上高	2,300億円
営業利益	65億円
経常利益	45億円
有利子負債	1,250億円
D/Eレシオ	2.3倍

<前提条件>

為替：115円/US\$、125円/€

原油価格 (Dubai)：45 US\$/BBL

(ご参考)

連結指標	(実績)	(第2次中期経営計画)		
	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期
売上高	2,163億円	2,200億円	2,250億円	2,300億円
営業利益	39億円	45億円	55億円	65億円
経常利益	22億円	25億円	35億円	45億円
有利子負債	1,388億円	1,350億円	1,300億円	1,250億円
D/Eレシオ	2.8倍	2.7倍	2.5倍	2.3倍

以上